

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年3月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2024年3月8日～3月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より2.4ポイント改善の▲22.0となった。

2017年9月以来79ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲20.5、当月と比べ1.5ポイントの改善が見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2023年 10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	先行き見通し 2024年4月～ 2024年6月
業況	▲18.1	▲19.7	▲22.8	▲20.3	▲24.4	▲22.0	▲20.5
売上	▲5.5	▲3.9	▲13.4	▲5.3	▲14.7	▲13.3	▲13.4
採算	▲17.3	▲17.3	▲24.4	▲21.1	▲25.2	▲24.5	▲21.2
仕入単価	▲55.1	▲60.7	▲59.8	▲57.9	▲59.4	▲63.8	▲55.9
販売単価	24.4	26.7	26.0	27.0	25.2	25.2	28.3
従業員	37.0	32.3	33.1	33.0	30.0	37.0	39.3
資金繰り	▲9.5	▲8.7	▲8.7	▲12.0	▲13.8	▲11.0	▲14.1

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	先行き見通し 2024年4月～ 2024年6月
建設	▲20.0	▲37.9	▲31.0	▲31.0	▲36.7	▲11.6	▲26.9
製造	▲27.6	▲21.2	▲23.4	▲15.6	▲32.3	▲25.0	▲12.5
卸売	▲6.7	▲3.4	▲16.6	▲17.3	▲16.6	▲7.7	▲11.6
小売	▲25.0	▲15.8	▲25.0	▲27.3	▲21.0	▲30.0	▲30.0
サービス	▲11.1	▲17.7	▲16.7	▲9.5	▲5.2	▲39.1	▲26.1

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃上げ実施による人件費コストの増加。時間外上限規制に対する対応(工期に与える影響が大きいと受注抑制の懸念)。若年層(新卒採用)の入職者の減少(少子化・業界のイメージ) (総合工事)</li> <li>・春闘で大企業の大幅賃上げの波が中小企業にも押し寄せてきており、弊社としても賃上げは必至であるも、売上見通しが厳しいなか賃上げ率を抑制せざるを得ない状況である。4月から新入社員2名を採用するが未だ人員は不足している。今後も計画的に募集は行っていくが新卒募集時の給与を更に引き上げざるを得ず、在籍社員との給与水準のバランスがネックになっている。(建築業)</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今月も OEM の依頼と商品の発注・出荷で売上の進捗ができた。人員募集をかけているが、厳しい状況が続いている。(食料品)</li> <li>・印刷業は3月・4月が一番の繁忙期。毎日残業。人手不足は続いている。(印刷・出版)</li> <li>・コロナ発生前の売上高に遠く及ばず4期目を迎える。発注量が少なく、競争の原理で単価も下降気味の傾向にあり、総じて厳しい経営状況が続いている。(家具・木材)</li> <li>・前年と比べると受注残(秋・冬期工事)が少ない。今後の動向による。(金属窯業他)</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃上げと円安や物価高による仕入れコストの上昇、人材不足、物流の2024年問題など売上げが伸び悩む中で会社が抱える負担は増大する一方。消費の低迷と物流事情の変化がもたらす今後の影響は見通しにくく、不安ばかりが募る。(繊維・衣服等)</li> <li>・事業部間の連携を円滑に行うため本社でのみ使用していたワークフローツールを各事業部にも展開した。グループ全体のスケジュール共有から始まり書類のペーパーレス化にも取り組んでいる。(飲食料品)</li> <li>・燃料の高止まり傾向をはじめ、土木資材の上昇などコスト増となってきたが、受注確保の観点からも、なかなかコスト上昇分の転嫁が難しい。(機械鋼材)</li> <li>・昨年、様々な要因があり販売単価が右肩よりだった。価格転嫁の限界が競売の雰囲気から推し量る事ができる。誰が我慢する年になるのかコロナ禍でも働き方改革を止めずそのうえ賃上げ、税金を上回る補助金が必要になる未来も近いのでは。貸し剥がしの影響を注意しなくてはならない。(その他)</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月は卒業(高校・大学)、入学(大学・専門学校)、新社会人と動きが多い月になる。季節も少しずつ春モードになり来店客数も少し増えている。顧客の用途に合わせ売上が取れるように専門店としての接客を心掛けている。(衣服身回品)</li> <li>・昨年販売価格値上げをしたが、結果として増収増益となった。コロナ禍で出来なかった設備投資(更新)を昨年実施。引き続き今春も賃金上昇が大きく、収益圧迫要因となる。更に仕入原材料値上げの声が今期も聞こえており、今期は収益確保が厳しくなる。弊社商品価格の一部値上げを検討しているが、更なる値上げは顧客離れの懸念が危惧される。しかし、収益確保が大前提であり減収確保で実施予定。仕入れ先の値上げがいつまで続くのか我慢の状況は当面続きそう。(食料品)</li> <li>・インバウンド観光客が増えつつあるが、節約旅行がまだまだ多いように感じる。旭川に富裕層が宿泊・滞在できる施設が出来てくれることを期待している。(その他)</li> <li>・決算期による需要の増加・販売単価の上昇により前年対比で売上は増加する見込み。しかし、4月から賃上げすることが決まり、今後の人件費の上昇を考慮すると採算は悪化していくと予想している。(自動車)</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月はイベントも特にないため、観光客減少。ビジネス客も前年度と比較しても減少しているため売上も落ちている。春以降は人出も多くなることが予想されるため、売上増加に期待。それに伴い人手不足は深刻な問題となる。(ホテル・旅館)</li> <li>・技能労務者単価上昇に伴い、今期も5%程度の賃上げを予定しているが、民間工事においては価格競争が激しくなりつつあり、価格転嫁出来ないため、採算の低下が見込まれる。(その他)</li> <li>・コロナ禍から4年ぶりに通常に歓送迎会が行われるようになり、売上げが伸びてよかった。しかし、人手不足が続き今後の課題となっている。(飲食)</li> <li>・賃上げに関して底上げは必要と認識するものの価格転嫁は困難。4月からの運賃見直しは好材料もキャッシュフロー的には維持更新設備投資が不可欠であり、厳しい状況が続いている。(運送)</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI28.9 ポイント改善、採算 DI24.6 ポイント改善、仕入単価 DI8.5 ポイント改善、販売単価 DI6.4 ポイント改善、資金 DI12.3 ポイント改善、従業員 DI23.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 25.1 ポイント改善となった。業種別では、総合工事 15 ポイント、設備・その他 21 ポイント、建築業 35 ポイント改善となった。現場管理者、先頭になれる大工の不足との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI12.4 ポイント悪化、採算 DI2.4 ポイント悪化、仕入単価 DI4.5 ポイント悪化、販売単価 DI0.8 ポイント悪化、資金 DI6.0 ポイント悪化、従業員 DI3.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、家具・木材、金属窯業他横ばい、食料品 1 ポイント、印刷・出版 40 ポイント改善となった。昨年は 4 月価格改定実施により駆け込み需要が大きかったが、今年 1 月の価格改定実施による駆け込みは予定より穏やかだったとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI2.6 ポイント悪化、採算 DI8.9 ポイント改善、仕入単価 DI4.5 ポイント悪化、販売単価 DI9.7 ポイント改善、資金 DI12.5 ポイント改善、従業員 DI2.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等 20 ポイント悪化、機械鋼材横ばい、食料品 29 ポイント、その他 19 ポイント改善となった。灯油の仕入価格は上下しているが小幅なものとなっている。販売価格は現状のまましばらく続くと思われるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI9.5 ポイント悪化、採算 DI8.5 ポイント悪化、仕入単価 DI6.1 ポイント悪化、販売単価 DI13.7 ポイント改善、資金 DI5.5 ポイント改善、従業員 DI2.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.0 ポイント悪化となった。業種別では、自動車 7 ポイント改善、衣料品、食料品横ばい、その他 29 ポイント悪化となった。新車の納期が遅い状況のため中古車の流通量が減少し、仕入れ価格が上昇しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI4.3 ポイント悪化、採算 DI29.6 ポイント悪化、仕入単価 DI21.3 ポイント悪化、販売単価 DI32.5 ポイント悪化、資金 DI9.4 ポイント悪化、従業員 DI15.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 33.9 ポイント悪化となった。業種別では、飲食 5 ポイント改善、理美容・クリーニング、整備業横ばい、ホテル・旅館 115 ポイント、その他 17 ポイント、運送 30 ポイント悪化となった。広告業界全体が停滞状況にあり、特に屋外広告関係は企業も新規や更新など極力抑えているとの声も寄せられている。</p>